



緑風会 藪田 啓介 議員

- 1 鈴鹿市の市道と歩道について
 - (1) 農業振興地域における市道認定の経緯と現状はどうか
 - (2) 三日市地区における農作業車両と歩道の関連について

質問1(1) 当市の重要基幹道路である中央道路と並行する「ふるさと農道」整備事業と農地整備事業および市道認定の経緯および現状はどうか。ふるさと農道には両側に3メートルの自転車・歩行者道があるが、両側に歩道を整備するにあたり、地元との話し合いはどうであったか。

答弁1(1) 算所・三日市地区のふるさと農道の整備は、

地元や地権者の多大な理解と協力をいただき、完成した重要な道路である。現状は7メートルの車道と両側3メートルの歩道がある市道である。地元への説明会は当時の道路課・耕地課等で行い道路幅幅にあわせ安全性の確保を重視した。

質問1(2) 歩道の安全確保と農作業車両の関連はどうか。農業・商業・工業振興と社会資本としての道路整備についての見解はどうか。

答弁1(2) 車・歩道の分離を基本施策としながら関係地権者、役員の要望と協力をいただき安心して通行できる道路事業推進を図っている。社会資本整備には、地元・地権者の理解・協力が不可欠であり多面的な役割・機能と農業振興の両面がともに活きる方策の検討を進めていく。



無所属クラブ 板倉 操 議員

- 1 鈴鹿の子どもたちの進路保障の件
 - (1) 神戸高校・亀山高校定時制の統廃合について
- 2 就学前の外国籍の子どもたちの件
 - (1) 生活言語の習得について

質問1(1) 県の方針で神戸高校と亀山高校の定時制を統廃合し、11年度飯野高校に新設校を創ることが発表された。この件についての協議会では、現場の先生方、PTA連合会代表等から問題点や課題が出されている。厳しい経済情勢や外国人児童の増加等により、生徒数は増加している。不登校経験者にとっても定時制は必要な学びの場でもある。働く場や生活圏に引き続き定時制を維持し拡充し、学びの場を確保すること

が子どもたちの進路保障に繋がると思う。鈴鹿市の考えはどうか。

答弁1(1) 県立高校の設置運営は一義的に県が担うものだが、地元として定時制高校が果してきた役割を維持拡充することを引き続き県に求めていく。

質問2(1) 小学校における外国人生徒に対する学習言語習得の教育は、充実し研究も進んでいるが、そこに繋げる就学前の児童への対応はどうか。

答弁2(1) 公立幼稚園児については、園生活の中で意図的にその場に応じた日本語習得をめざす研究と実践を続け、学力保障の土台をつくる。保育所では保護者の意識改革をうながすと共に、正しい日本語で児童に接することを基本にして、学習言語に繋がっていく生活言語の習得をめざしていく。



無所属クラブ 杉本 信之 議員

- 1 地域自治区と地域協議会について
- 2 多文化共生について
- 3 無就労若年者への支援について
- 4 全国学力テストについて

質問1 地方自治法が改正され、住民自治を強化する方法として地域自治区を設定し地域協議会を置くことができるようになった。導入を考えないか。

答弁1 導入の考えは無い。鈴鹿独自の地域づくり協議会の設置を各地域に促し住民自治を推進したい。

質問2 多文化共生担当課の設置と多文化共生のプランや計画の策定が必要と思うが、どう考えるか。

答弁2 一昨年設置した市民対話課の中の外国人交流室が中心となり、昨年「多文化共生推進庁内会議」

を立ち上げ、外国人と関わる各課の担当者を一同に集め外国人施策を推進している。8月末現在外国人登録者数は1万399人で総人口の5%を占めており現在多文化共生推進指針の策定準備をしている。

質問3 鈴鹿にいる約1千人の15歳から34歳の無就労者の支援をどのようにしていくのか。

答弁3 三重県の若者自立支援センターと連携しつつ支援していきたい。

質問4 テスト結果をどう活用したか。学校は色々やる事も多いので今後参加を見合わせたらどうか。

又、国に抽出でのテストを働きかけたらどうか。

答弁4 19年度の結果を分析し、指導改善につなげるよう努めた。来年も参加し調査結果を活用したい。